

考えを確かにする、伝え合う、協働して深めること ができるフィールドをつくる ICT 機器の活用

B:校内研修Ⅱ型(課題設定型の研修)

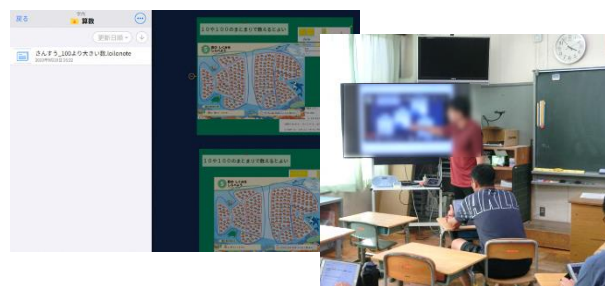
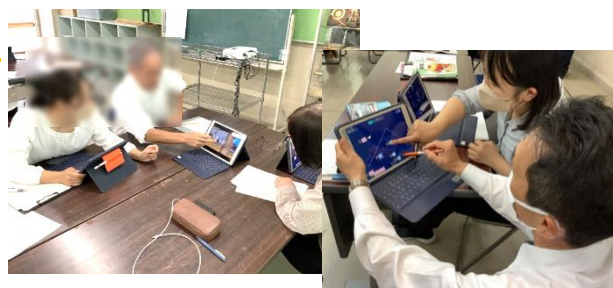
こんな先生方の姿が生まれました!

- 職員が ICT 活用の必要性や有効性を感じながら、効率的・計画的に研修に参加できた。
- 協働学習支援ツールの活用技能が向上し、ICT を活用した実践が増えた。
- ICT 活用によって生まれる個別最適な学びや協働的な学びの姿について、具体的に理解できた。

ICT 活用のための校内研修

職員の現状やニーズを知り、研修を計画する

- ・年度の初めに職員に向けて「タブレット操作技能一覧」を用いた調査を行い、結果を基に優先度を決めて研修を精選し、計画・実施した。
- ・教師の要望を受けて、随時希望者による研修を行った。
- ・認定ティーチャー作成の授業案等をダウンロードして活用したことで、教師が ICT を活用した授業に見通しをもてたり有効性を実感できたりし、活用意欲に結び付いた。
- ・ICT 端末上に「授業案」「資料箱」を作成し、本校の実態に合わせた授業案や資料を貯めていくことで、負担軽減や改善につなげていく体制ができた。
- ・授業研究会で協働学習支援ツールを用い、映像(児童の姿)を根拠とした意見交流、チャートを用いた意見集約等をしたことで、教師が協働的な学びを体験することができた。



研修のポイント

- 学校や職員、児童の実態を把握し、内容を精選して研修を行う。
- 研修で終わらず、授業、業務の中で実践する。必要に応じ担当者が支援できる体制をつくる。

考えを確かにする、伝え合う授業の実践から得たもの



3年生国語「班で意見をまとめよう」の実践から

- ・思考ツールを用い、視覚的に考えを整理することにより、様々な考えに触れることができた。
- ・目的を常に確かめながら、比較したり、新しい考え方を取り入れたりすることができた。



5年生体育「ソフトバレーボール」の実践から

- ・課題となる動きを、映像を見て確かめることで、実際の試合の中で、何を見て、いつ、どこで、どうするのかを焦点化し、課題につなげることができた。
- ・児童の活動の様子を児童が互いに撮影することにより、映像を基にして課題となる動きができていないかを確認することができた。

実践のポイント

- 個別最適な学びの延長に協働的な学びがあるという意識をもつ。
- 個や集団の情報の整理、比較、検証、共有場面で活用すると効果が高い。
- 課題になる動作の細分化、段階化、焦点化、実践、客観的評価の場面を意識して活用するとよい。